SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

Ⅷ グローバル企画推進室 アジアブリッジ・プログラム（ABP）：平成29年度初学期教育コース(年次報告（平成29年度後期・30年度前期))

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 玉地, 瑞穂, 名塩, 征史 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00026322

Ⅷ グローバル企画推進室 アジアブリッジ・プログラム(ABP)

平成29年度初学期教育コース

玉地　瑞穂／名塩　征史

1．コースの目標と概要

ABP初学期教育コースは、本学において平成27年度から開始された留学生向けグローバル人材育成プログラムである「静岡大学アジアブリッジ・プログラム（ABP-SU）」の一環として行われる集中コースである。本コースは、上記プログラムによってアジア4カ国（インド、インドネシア、タイ、ベトナム）から選抜された学士留学生が、専攻する学部のカリキュラムに入る前の半年間（後期）に受講するコースであり、「ABP基礎日本語」と「ABP基礎科目」によって構成される。

ABP基礎日本語は、静岡（大谷）・浜松の各キャンパスで10科目開講される。目標は、専門科目の講義を理解する上で必要な日本語の知識と運用能力、そして、そうした日本語力を自律的に高めていくための基礎を養うことである。初学期教育開始時に静岡キャンパスでは日本語能力試験N2相当に、浜松キャンパスではN3相当に達していることを前提として、下記の学習目標を課す。

［N3レベルの学生］N2レベルに相当する語彙・文法を学習し、同レベルに応じた実践的な日本語運用能力の習得を目指す。
［N2レベルの学生］N1レベルに相当する語彙・文法を学習し、同レベルに応じた実践的な日本語運用能力の習得を目指す。

ABP基礎科目は、各学部の専門科目を受講する新入生に対して大学側が期待する（日本の教育制度を想定した場合の）高校卒業レベルの基礎知識を補完するために開講される専門科目である。静岡キャンパスでは文系基礎科目と理系基礎科目が、浜松キャンパスでは理系基礎科目のみが開講される。したがって、浜松キャンパスの情報学部文系学科（情報社会学科・行動情報学科）に所属する留学生は静岡キャンパスで初学期教育を受講することになる。平成29年度では、情報学部情報社会学科所属の学生1名と行動情報学科の学生2名が静岡キャンパスで受講した。

2．コース開講期間

平成29年10月2日～平成30年2月9日（試験期間を含む）

3．静岡キャンパス（文系コース）

3．1．受 講 者

人文社会科学部・言語文化学科－ 1名
理学部・化学科－ 1名
農学部・生物資源科学科－ 1名
情報学部・情報社会学科－ 1名
人文社会科学部・経済学科－ 2名
理学部・生物科学科－ 2名
教育学部・学校教育教員養成課程－ 1名
情報学部・行動情報学科－ 2名
（ベトナム国籍　10名、タイ国籍　1名）

3．2．時 間 割

時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2時限 8:40-10:10	ABP 基礎日本語Ⅰ	ABP 基礎日本語Ⅱ	ABP基礎科目 基礎物理学	ABP 基礎日本語Ⅳ	ABP基礎科目 日本の政治
3・4時限 10:20-11:50	ABP 基礎日本語Ⅵ	ABP基礎科目 日本の地理	ABP基礎科目 基礎生物学	ABP 基礎日本語Ⅸ	ABP 基礎日本語Ⅹ
5・6時限 12:45-14:15	ABP基礎科目 日本の経済	ABP 基礎日本語Ⅶ	ABP 基礎日本語Ⅲ	ABP基礎科目 基礎統計学	ABP基礎科目 日本の歴史
7・8時限 14:25-15:55	ABP基礎科目 日本の社会	ABP 基礎日本語Ⅷ	ABP基礎科目 基礎化学	ABP基礎科目 基礎数学	ABP 基礎日本語Ⅴ

3．3．各科目の内容：ABP基礎日本語Ⅰ～Ⅹ

【日本語総合】ABP基礎日本語Ⅰ～Ⅳ（週4コマ×15週）

目　　標：中上級レベルの日本語を使った「読む・書く・聞く・話す」活動を通じて、上級レベルへのステップアップを目指す。

内　　容：テキストの「読解」「聴解」「総合練習」を行いながら、中上級レベルの文法・語い・表現を理解し、使いこなす練習を行う。各課で語彙力・文法力をチェックするクイズを実施し、2～3課ごとに「まとめ」と「復習」を行う。学期中に4回、様々な活動を通じて日本文化などについて学ぶ〔Activity〕を実施する。

使用教材：『学ぼう！にほんご　中上級』（専門教育出版）
『学ぼう！にほんご　中上級　練習問題集』（専門教育出版）

【アクティブ・ラーニング】ABP基礎日本語Ⅴ（週1コマ×15週）

目　　標：①自分の日本語能力を、具体的な状況や目的に合わせて適切に発揮できるようにする。②日本語を基調とする活動を、自分で考え、手段を選択し、遂行できるようにする。③既習の日本語を駆使して他者と話し合い、理解し合うことで、より効率良く目標を達成できるようにする。

内　　容：今後の目標を決め、充実した大学生活を送るための計画を立てる。自分が今ど

んな状況／環境に置かれているのか、そこではどんなことが可能なのか、これから自分に何が求められているのかを調査し、把握することで、大学生活への意識を高める。互いの主張を明確に述べ、互いの立場を理解した上で意見を交わし、他者とのインタラクションを通じて物事を多角的に捉えるトレーニングを行う。常に他の可能性を見据えながら作業に取り組む柔軟な姿勢を必要とする実践的なトレーニングを行う。

使用教材：担当講師が適宜資料を作成・配布

【読解】ABP基礎日本語Ⅵ（週1コマ×15週）

目　　標：中上級レベルの文章をできるだけ速く、正確に、読んで理解できるようになることを目指す。

内　　容：①中上級レベルの短い文章を速読し、概要を理解し、必要な情報だけをピックアップする練習を行う。②中上級レベルの中文・長文を読み、重要な語彙・表現を学びながら内容を理解し、日本の文化・社会について考える。

使用教材：『中上級学習者のための日本語読解ワークブック』（アルク）
『読むトレーニング　応用編』（スリーエーネットワーク）

【文章表現】ABP基礎日本語Ⅶ（週1コマ×15週）

目　　標：やや専門的な内容の文章が書けるようになることを目指す。客観的に事実と自分の考えをうまく整理し、わかりやすく論理的な文章を書くための知識・技術を学ぶ。

内　　容：①いくつかのテーマで自由作文を書き、これまで学習してきた知識や技術について、復習しなければならない点や足りない点を確認する。②中上級から上級までの文章表現を学び、論理的な構成を意識しながら最終レポートを書く。

使用教材：『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）
『中級日本語文法要点整理ポイント20』（スリーエーネットワーク）

【発表】ABP基礎日本語Ⅷ（週1コマ×15週）

目　　標：調査結果や自分の考えについてわかりやすく発表するために必要な日本語力を身につける。発表の理解を助けるスライドやポスターの作り方、使い方を学ぶ。

内　　容：①MS PowerPointで作成したスライドを使って、口頭発表を行う。前半は、その口頭発表の準備として、発表内容をわかりやすくまとめ、スライドの作り方を学び、スピーチの練習を行う。②ポスターを使った発表を行う。後半は、そのポスター発表の準備として、発表内容をまとめ、ポスターの作り方を学び、質疑応答の練習を行う。

使用教材：担当講師が適宜資料を作成・配布

【口頭コミュニケーション】ABP基礎日本語Ⅸ（週1コマ×15週）

目　　標：やや高度な日本語の口頭表現を駆使して、「依頼」「要請」「情報確認」「謝罪」「申

し出」などの行為を、状況に合わせて適切に遂行できるようにする。聴き取りやすい発音で、素早く適切に話せるようになることを目指す。

内　　容：①中上級レベルの語いや表現を確認しながら、いろいろな目的や状況に合わせた言葉選びと、多様な展開を想定した柔軟な会話の練習を行う。②聴き取った日本語を、正確に自分で繰り返してみる練習（シャドーイング）を行う。

使用教材：『聞いて覚える話し方　日本語生中継　初中級編・中～上級編』（くろしお出版）
『Shadowing 日本語を話そう！　中～上級編』（くろしお出版）

【聴解】ABP基礎日本語X（週1コマ×15週）

目　　標：やや高度な日本語の会話やスピーチを自然なスピードで聴き、内容を理解したり、必要な情報をピックアップしたりする力を身につける。聞き取った情報の記録（書き取り）を、その後の情報整理や学習に活用できるような工夫を考え、即座に実践できるようにする。

内　　容：①中上級レベルの語いや表現を確認しながら、いろいろなテーマについての会話やスピーチの内容を聴き取り、必要な情報をピックアップする練習を行う。②聴き取った日本語を正確に書き取り、その後の活動に利用しやすいように整理する練習を行う。

使用教材：『聴くトレーニング〈聴解・聴読解〉　応用編』（スリーエーネットワーク）
『中級からはじめる　ニュースの日本語　聴解40』（スリーエーネットワーク）
『ニュースの日本語　聴解50《中級後半～上級レベル》』（スリーエーネットワーク）

3．4．ABP基礎科目について

平成29年度の静岡キャンパス初学期教育コースでは、文系基礎科目として「ABP日本の社会」「ABP日本の経済」「ABP日本の地理」「ABP日本の歴史」「ABP日本の政治」といった社会科系の科目を、さらに理系基礎科目として、「ABP基礎数学」「ABP基礎統計学」「基礎化学」「基礎生物学」「基礎物理学」といった理数系の科目も開講した。そのため、昨年度までは浜松キャンパスで初学期教育を受講していた理学部と農学部の学生が、両学部の所属キャンパスである静岡キャンパスで受講できるようになった。

4．浜松キャンパス（理系コース）

4．1．受 講 者

工学部・機械工学科	4名	工学部・電気電子工学科	5名
工学部・電子物質工学科	3名	工学部・科学バイオ工学科	1名
工学部・数理システム工学科	1名	情報学部・情報学科	1名

（インドネシア国籍　3名、ベトナム国籍　12名）

4．2．時 間 割

時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
3・4時限 10:20−11:50	ABP基礎科目 生物学	ABP基礎科目 物理学	ABP基礎科目 化学	ABP基礎科目 統計学	ABP基礎科目 数学
5・6時限 12:45−14:15	ABP 基礎日本語Ⅰ	ABP 基礎日本語Ⅱ	ABP 基礎日本語Ⅲ	ABP 基礎日本語Ⅳ	ABP 基礎日本語Ⅴ
7・8時限 14:25−15:55	ABP 基礎日本語Ⅵ	ABP 基礎日本語Ⅶ	ABP 基礎日本語Ⅷ	ABP 基礎日本語Ⅸ	ABP 基礎日本語Ⅹ

4．3．授業内容（ABP基礎日本語）

【読解・文法】ABP基礎日本語Ⅰ，Ⅱ，Ⅳ，Ⅴ（週4コマ×15週）

目　　標：中級レベルの日本語を使った「読む・書く・聞く・話す」活動を通じて、中上級レベルへのステップアップを目指す。

内　　容：テキストの「読解」「聴解」「総合練習」を行いながら、中級レベルの文法・語い・表現を理解し、使いこなす練習を行う。各課で漢字をチェックするクイズとワークブックによる復習を行う。

使用教材：“An Integrated Approach to Intermediate Japanese”（The Japan Times）
“An Integrated Approach to Intermediate Japanese Workbook”（The Japan Times）

【科学日本語】ABP基礎日本語Ⅲ（週1コマ×15週）

目　　標：理系の学生生活を送るうえで遭遇する日本語、特に科学文書に出てくる特殊な日本語表現を中心に学習する。

内　　容：理系の分野の明確な表現・文章の構成を持つ「科学日本語」で必要とされる表現を学習する。

使用教材：『理系留学生のための日本語』（講談社）

【文法・表現】ABP基礎日本語Ⅵ（週1コマ×15週）

目　　標：専門書を読んだり、レポートを書くために必要な学術的なレベルの表現の習得を目指す。

内　　容：日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴで紹介しきれなかった中級レベルの日本語の表現文型を

学習し、学術的なレベルの表現を学習する。
使用教材：『新完全マスター文法　日本語能力試験N3』（スリーエーネットワーク）
『どんなときどう使う日本語表現文型500　短文練習帳』（アルク）

【漢字・語彙】ABP基礎日本語Ⅶ（週1コマ×15週）
目　　標：中級以上の漢字の読み書きができるようになることを目指す。
内　　容：テーマごとに文章を読み、各漢字の意味や使い方を学習する。
使用教材：『上級へのとびら　きたえよう漢字力　上級へつなげる基礎漢字800』（くろしお出版）

【聴解】ABP基礎日本語Ⅷ（週1コマ×15週）
目　　標：「聞く」「読みながら聞く」トレーニングを積み重ね、多くの情報から必要な情報を聞き取れるようになることを目指す。
内　　容：「学習・研究活動」、「キャンパス生活」、「日常生活」など場面別でよく使用される基本的な語彙を取り上げ、それらを会話の中で聞き取る練習を行う。聴解と聴読解で必要とされるストラテジーを学び、どんなところに注意して聞けばよいかを学ぶ。
使用教材：『聞くトレーニング〈聴解・聴読解〉基礎編』（スリーエーネットワーク）

【速読】ABP基礎日本語Ⅸ（週1コマ×15週）
目　　標：論理的文章を読み書きする力の習得を目指す。
内　　容：少し長い文章を読み、文章全体で述べられていることを読み取る。読解力を高め、問題に的確にこたえられるためのストラテジーを学習する。
使用教材：『読むトレーニング　基礎編』（スリーエーネットワーク）

【作文】ABP基礎日本語Ⅹ（週1コマ×15週）
目　　標：論理的文章を読み書きする力の習得を目指す。
内　　容：中級学習者が専門的な文章を書くために必要な表現、文法を作文の基礎知識とともに学習する。
使用教材：『大学・大学院留学生の日本語②作文編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会）

4．4．ABP基礎科目について

平成29年度の浜松キャンパス初学期教育コースでは、昨年度と同様に、理系基礎科目として「ABP生物学」「ABP物理学」「ABP化学」「ABP統計学」「ABP数学」といった理数系の科目を開講した。

「ABP物理学」「ABP化学」「ABP数学」は対象者全員、「ABP統計学」は情報学部の学生のみが受講した。「ABP生物学」は工学部・情報学部とも必須ではないが、工学部・バイオ工学科の学生1名が受講した。